

中学校英語一年生の文型 (1)

荒 井 義 明

1.1. 中学校学習指導要領に定められた文型

現行の「中学校学習指導要領」は、第一学年の英語の言語材料の「文」と「文型」について、次のように定めている。

文については、

(ア) 単文。

(イ) 平叙文のうち、肯定文および否定文。

(ウ) 疑問文のうち、動詞で始まるもの、助動詞 Can, Do および Does で始まるもの、or を含むもの、ならびに How, What, When, Where, Which, Who および Whose で始まるもの。

(エ) 命令文のうち、Be 動詞以外の動詞で始まるもの。

文型については、

(ア) 主語＋動詞の文型。

(イ) 主語＋動詞＋補語の文型のうち、動詞が be 動詞で、補語が名詞、代名詞および形容詞である場合。

(ウ) 主語＋動詞＋目的語の文型のうち、目的語が名詞および代名詞である場合。

(エ) There is, There are および Let us で始まる文型。

昭和 52 年 7 月 23 日に改訂され、昭和 56 年度から実施される「中学校学習指導要領」では、「文」の (イ) 項が、「肯定及び否定の平叙文」，「文型」の (エ) 項が、「There is 及び There are で始まる文型」と改訂されている。

現行の中学校の英語の教科書は、昭和 44 年に改訂された「中学校学習指導要領」に準拠して作成されている。現在中学校で使用されている英語の文部省検定済教科書は、中学校用教科書目録（文部省刊）に従えば、次の五種類である。順序は、中学校用教科書目録の掲載の順序に従った。なお、括弧内の記号は、引用の便宜の為に任意に付けたものである。

- New Horizon English Course (A)
- New Everyday English (B)
- New Prince English Course (C)
- The New Crown English Series (D)
- New Total English Course (E)

1.2. 文と文型

Leonard Bloomfield の ‘A Set of Postulates for the Science of Language’ に従えば、ある言語社会 (speech-community) でなされうる発話 (utterance) の総体はその言語社会の言語 (language) である。発話とは、一つの談話の行為 (act of speech) である。そして文 (sentence) は、発話における最大の形式 (maximum form) と定義される¹⁾。

Charles C. Fries は、*The Structure of English* の第二章で、Bloomfield の定義は、「一つの談話行為」と「発話」のどちらに対しても量的基準 (quantitative measure) を備えていないと批判し、発話の代わりに発話単位 (utterance unit) という術語を用いて、言語の単位とすることを提案している。そして発話単位を、「話者の交替によって区分される、前後に沈黙を伴なう一続きの談話」と定義している²⁾。

Fries は、発話単位は、1. 単一最小自由発話 (single minimum free utterance), 2. 単一拡大自由発話 (single free utterance, not minimum but expanded), 3. 二つあるいはそれ以上の自由発話の連続 (sequence of two or more free utterances) の三つから成るとしている。そして、1と2を文 (sentence) としている³⁾。この Fries の定義は、文を外形的に識別する手掛りとして役立つであろう。

文においては、その構成要素が一定の仕方で配列されている。文において、その構成要素は、相互に有機的関係を持ち、その関係に規則性があり、一つの構造を成している。文における構成要素の有機的関係が機能 (function) である。機能の観点から文を分析すると、文はまず主部 (subject) と述部 (predicate) から成る。Otto Jespersen は、文の要素のこのような機能的構成を文構造 (sentence-structure) と名付けている⁴⁾。

C. T. Onions は、述部の形式に従って、文の構造を次の五つの主要な型に分類している⁵⁾。

第一形式……述部が動詞 (verb) のみから成るもの。

第二形式……述部が動詞と述部形容詞 (predicate adjective) あるいは述部名詞 (predicate noun) あるいは述部代名詞 (predicate pronoun) から成るもの。

第三形式……述部が動詞と目的語 (object) から成るもの。

第四形式……述部が動詞と二つの目的語から成るもの。

第五形式……述部が動詞と目的語と述部形容詞あるいは述部名詞から成るもの。

C. T. Onions は、名詞 (noun) を修飾する文の要素を限定詞 (attribute)、動詞、形容詞、副詞を修飾する文の要素を付加詞 (adjunct) と名付けている。また文において、名詞、形容詞、副詞と同じ機能を果たす語あるいは語群を相当語句 (equivalent) と名付けている。そして、相当語句を形成している語群で、それ自身の主部・述部を持たないものを句 (phrase)、それ自身の主部・述部を持っているものを従節 (subordinate clause) と名付けている⁶⁾。

文型 (sentence pattern) は、機能の観点から、文の要素の機能的構成に従って、文構造を分類したものと言えよう。中学校学習指導要領では、C. T. Onions の第二形式および第五形式における述部形容詞、述部名詞、および述部代名詞を補語 (complement) と名付けている。

文型においては、平叙文の文構造を基準として、その他の文の種類は、平叙文から変形によってできたものとして説明される。

文構造あるいは文型における、主部、述部、目的語、補語は、機能に基づいた命名である。C. T. Onions や中学校学習指導要領が、文型の記述に用いている「動詞 (verb)」は、品詞あるいは語類に基づく命名であるので、機能を表わす術語としては、「述部動詞 (predicate verb)」を用いた方が、一貫性を保つことができるであろう。

文型は、すでに述べたように、文を機能の観点から、主部、述部、述部動詞、目的語、補語、限定詞、付加詞、相当語句に分析し、それらに基づく文の構造記述である文構造を分類したものである。主部、述部、述部動詞、目的語、補語、限定詞、付加詞、相当語句は、文の要素の、文における機能的関係、換言すれば、統語関係 (syntactic relation) あるいは統合関係 (rapport syntagmatique) を示している。

文の要素は、文において相互に機能的関係すなわち統語関係を持つと同時に、言語の体系内において、品詞あるいは語類の範疇に属している。文の要素のこの関係は、いわゆる連合関係 (*rapport associatif*) と呼ばれる関係とみなしてさしつかえないであろう。変形生成文法では、語彙範疇 (*lexical category*) を用いてこの関係を記述している。文の分析、あるいは文の構造分析は、文の要素の統合関係ばかりではなく、連合関係も考慮に入れなければならない。

機能の観点から文を分析し、機能的関係に従ってその構成要素を分類すると、主語、述部動詞、補語、目的語、限定詞、付加詞になる。主語、述部動詞、補語、目的語を用いて文構造を記述し、分類すると、文は C. T. Onions が為したように、五つの主要な文型に分類される。この五つの主要文型は、主語、述部動詞、補語、目的語を構成している要素を、連合関係の観点から、分析記述するならば、更に、下位区分されることになる。

更に文を複雑にしているものは、限定詞と付加詞である。特に付加詞は、さまざまな仕方で述部動詞を修飾する。五つの主要文型は、限定詞、付加詞の修飾の観点から、下位区分することが可能である。

英文の理解に際しては、統語的、機能的観点から、どの文型に属するかを理解すると共に、文の要素が、どのような語彙範疇から形成されているか、また、限定詞や付加詞が、どのような仕方で文の要素を修飾しているかを理解することが必要である。従って、文を五つの主要文型に分類すると同時に、文の構成要素を連合関係の観点から、また限定詞と付加詞の修飾の仕方の観点から、主要文型を下位区分する作業が行なわれなければならない。

本稿は、以上述べた観点に立って、現行の一年生用文部省検定済英語教科書の本文にある英文のすべてにわたって調査し、分類することを目的とするものである。引用文の末尾の括弧内のローマ字は、1.1. で述べた教科書の略号である。アラビア数字は、課を示す。

〔註〕

- 1) Martin Joos (ed.), *Readings in Linguistics*, pp. 26-28.
- 2) Charles C. Fries, *The Structure of English*, p. 23.
- 3) *Ibid.*, p. 51.
- 4) Otto Jespersen, *Essentials of English Grammar*, p. 97.

- 5) C. T. Onions, *An Advanced English Syntax*, pp. 6-9.
- 6) *Ibid.*, p. 10.

2.1. 第一形式

既に述べたように、C. T. Onions は、述部が述部動詞のみから成る文を第一形式と名付けている。中学校学習指導要領で、「主語＋動詞」の文型としているものは、この第一形式に属する。A. S. Hornby の動詞文型 (verb pattern) では、Pattern 21 として分類されている。この形式に用いられる動詞は、伝統的に完全自動詞 (complete intransitive verb) と呼ばれる。

この第一形式に属する例文を分析してみると、述部が、述部動詞のみから成るものと、述部動詞と付加詞から成るものがある。また付加詞は、さまざまな仕方で述部動詞を修飾している。従って、付加詞の機能に従って、第一形式を更に下位区分することが可能である。

主部は、代名詞、名詞、および限定詞を伴う名詞から成っている。

2.1.1. 主部＋述部動詞

標記の型に属する文例の主部は、人称代名詞、名詞、限定詞を伴う名詞で構成されている。述部動詞は単一のものと、接続詞 *and* で結ばれたものがある。

1. I study. (E-3)
2. I sing. (E-5) (E-12)
3. I walk. (E-13)
4. He swims. (E-11)
5. We skate. (E-11)
6. They listen. (E-7)
7. Sadao watches. (E-7)
8. The pupils listen. (E-7)
9. We play and sing. (D-12)

否定文。

My brother and I do not dance. (D-17)

Do で始まる疑問文。

Do you know? (E-17)

Who で始まる疑問文。

Who sing?

助動詞 **can** を含む述部は, C. T. Onions では, 本動詞は目的語 (object) として分析され, 第三形式に分類されている。「助動詞+本動詞」の結合は, この結合全体が, 単一動詞と同じ構文上の単位をなす動詞句を形成しているのであるから, 本稿では, 「助動詞+本動詞」の結合を特に分析せず, 助動詞による拡張された述部動詞として取り扱う。

I can skate. (A-12)

Can で始まる疑問文。

1. Can you swim? (A-12) (C-9)
2. Can you tell? (B-17)
3. Can you dance? (D-17)
4. Can you come? (D-18)
5. Can you ski, Mike? (A-12)
6. Can you ski, Bill? (C-9)
7. Can your parents dance? (D-17)

進行形。

1. I'm studying. (B-15)
2. He is dreaming. (D-21)
3. She is cooking. (C-14)
4. Vincent is listening. (E-19)
5. Lisa is singing. (E-19)
6. Father is swimming. (A-12)
7. Mother, the telephone is ringing. (B-15)

進行形の否定文。

They aren't singing. (E-19)

進行形の疑問文。

1. Are you studying? (B-15)
2. Are Bob and Vincent singing? (E-19)
3. Is it raining? (C-15)

命令文。

1. Listen. (E-7)

2. Look. (C-14) (D-22)
3. Wait. (B-18)
4. Listen and sing. (E-17)
5. Listen, Roy. (B-8)
6. Look, Bill. (C-2)
7. Look, pupils. (E-17)
8. Listen, everyone. (E-21)

Please を伴なう命令文。

1. Please come. (D-17)
2. Please sing, pupils. (E-7)

Let's で始まる文型。

Now let's practice. (E-15)

2.1.2. 主部＋述部動詞＋付加詞 (too)

主部＋述部動詞の後に、付加詞として全文修飾の副詞 too を伴なう型である。

1. He sings, too. (E-8)
2. They sing, too. (D-11)
3. Bob helps, too. (E-20)
4. My mother works, too. (D-14)

Do で始まる疑問文。

Do you work, too? (E-11)

助動詞 can によって拡張された述部動詞を持つ文。

My parents can dance, too. (D-17)

Can で始まる疑問文。

1. Can your sister swim, too? (A-12)
2. Can your sister ski, too? (C-19)

2.1.3. 主部＋述部動詞＋付加詞 (様態, 程度の副詞)

主部＋述部動詞の後に、付加詞としての様態あるいは程度の副詞 (ad-verb of manner or degree) を伴なう型である。

1. She sings well. (B-7)
2. Mother works hard, too. (B-20)
3. Father works hardest of all. (E-20)

助動詞 **can** によって拡張された述部動詞を持つ文。

1. We can study well. (B-19)
2. I can ski a little
3. But she can skate a little. (C-9)
4. She can sing highest, too. (E-20)

否定文。

I cannot sleep well. (D-24)

2.1.4. 主部＋述部動詞＋付加詞（程度の副詞）＋付加詞（様態の副詞）

主部＋述部動詞の後に、次の付加詞を修飾する程度の副詞 **very** と、付加詞としての様態の副詞を伴う形である。

1. They practice very hard. (E-20)
2. It works very well. (E-19)
3. Sounds goes very fast. (B-20)
4. The Shinkansen runs very fast. (B-20)
5. My father cooks very well. (D-18)

助動詞 **can** による拡張された述部動詞を持つ文。

1. He can swim very well. (A-12)
2. He can cook very well. (D-18)
3. He can run very fast. (D-22)
4. He can jump very high. (D-22)
5. They can sing very well. (A-12)
6. Swallows can fly very fast. (B-20)
7. My sister can dance very well. (D-17)
8. My father can cook very well. (D-18)

否定文。

1. He can't sing very well. (E-19) (E-20)
2. She cannot cook very well. (D-18)
3. My mother cannot cook very well. (D-18)

進行形。

1. He is working very hard. (D-19)
2. He is writing very fast. (E-19)
3. Oh, they are flying very fast. (B-7)

2.1.5. 主部＋述部動詞＋付加詞 (様態の副詞)＋付加詞 (場所の副詞句)

主部＋述部動詞の後に、付加詞としての様態の副詞の最上級と、付加詞としての場所の副詞句 (adverb phrase of place) を伴なう型である。

1. It runs fastest near my house. (D-24)
2. Light goes fastest in the world. (B-20)

Who で始まる疑問文。

Who works hardest in our home? (B-20)

2.1.6. 主部＋述部動詞＋付加詞 (様態の副詞)＋付加詞 (時の副詞句)

主部＋述部動詞の後に、付加詞としての様態の副詞と、付加詞としての時の副詞句 (adverb phrase of time) を伴なう型である。この型で用いられる時の副詞は、Chomsky が、Predicate-Phrase に支配される時の副詞として分析したものである。引用文は、助動詞 can によって拡張された述部動詞を持つ文の否定文である。

I cannot sleep well at night. (D-24)

2.1.7. 主部＋述部動詞＋付加詞 (頻度の副詞)

述部動詞の前後に、付加詞としての頻度の副詞を伴なう型である。

1. Sometimes I run. (E-13)
2. You often forget, too. (B-18)
3. He cooks every Sunday. (D-18)
4. They play every day. (D-11)

命令文。

Now look again. (E-17)

2.1.1. から 2.1.7. で取扱った文型に用いられている動詞は、次の 29 語である。

come, cook, dance, dream, fly, forget, go, help, jump, know, listen, look, play, practice, rain, ring, run, sing, skate, ski, sleep, study, swim, tell, wait, walk, watch, work, write.

2.2.1. 主部＋述部動詞＋付加詞 (副詞)

主部＋述部動詞の後に、述部動詞と結合して動詞副詞結合 (verb-adverb combination) を形成する付加詞としての特殊な副詞を伴なう型である。Hornby では、Pattern 23 に分類されているが、付加詞としてのこの特殊な副詞は、副詞的付加詞 (adverbial adjunct) となされているものの、

特別な区別はされていない。Chomsky の分析では、V に直接支配される副詞である。

1. He sits down. (E-7)
2. She sits down. (E-7)
3. Tadashi stands up. (E-7)
4. Kimiko stands up. (E-7)

命令文。

1. Sit down. (A-13)
2. Stand up, Ken. (A-13)
3. Stand up, Paul. (B-15)
4. Get up, Mike. (A-14)
5. Get up, Bill. (C-15)

Please を伴う命令文。

1. Tadashi, please stand up. (E-7)
2. Sadao, please stand up. (E-17)

Let's で始まる文型。

1. Let's sit down. (B-17)
2. Let's hurry up. (B-18)

2.2.2. 主部＋述部動詞＋付加詞（副詞）＋付加詞（程度の副詞）＋付加詞（様態の副詞）

2.2.1. で取扱った型の後に、付加詞としての程度の副詞 very と、更に付加詞としての様態の副詞を伴う型である。

You get up very early. (C-15)

2.2.3. 主部＋述部動詞＋付加詞（副詞）＋付加詞（時の副詞）

2.2.1. で取扱った型の後に、付加詞としての時の副詞句を伴う型である。

1. I get up at six. (A-14)
2. I get up at six thirty. (C-15)
3. I get up at six forty. (B-16)
4. He gets up at five thirty. (B-16)
5. Jane gets up at six thirty. (A-14)
6. I can get up tomorrow. (B-14)

否定文。

You can't get up at seven. (B-14)

Can で始まる疑問文。

Can you get up at seven? (B-14)

What で始まる疑問文。

1. What time do you get up? (A-14) (B-16) (C-15)

2. What time does he get up? (B-16)

2.2.4. 主部＋述部動詞＋付加詞(副詞)＋不加詞(様態の副詞)＋付加詞(時の副詞)

2.2.1. で取扱った型の後に、付加詞としての様態の副詞と、付加詞としての時の副詞句を伴う型である。

He gets up early in the morning. (A-18)

2.2.5. 主部＋述部動詞＋付加詞(副詞)＋付加詞(程度の副詞)＋付加詞(様態の副詞)＋付加詞(時の副詞句)

2.2.1. で取扱った型の後に、付加詞としての程度の副詞 very と、付加詞としての様態の副詞、付加詞としての時の副詞句を伴う型である。

My father gets up very early in the morning. (B-16)

2.2.6. 主部＋述部動詞＋付加詞(副詞)＋付加詞(様態の副詞)＋付加詞(頻度の副詞)

2.2.1. で取扱った型の後に、付加詞としての様態の副詞と付加詞としての頻度を表わす副詞を伴う型である。

She gets up early every morning. (B-20)

2.2.7. 主部＋述部動詞＋付加詞(副詞)＋付加詞(時の副詞)＋付加詞(頻度の副詞)

2.2.1. で取扱った型の後に、付加詞としての時の副詞句と、頻度を表わす副詞を伴う型である。

I get up at six every morning. (A-14)

2.2.1. から 2.2.7. で取扱った型は、主部＋述部動詞＋付加詞(副詞)と、その後にさまざまな付加詞を伴う拡張された文型である。この型で用いられている動詞副詞結合は、get up, sit down, stand up の三つである。

2.3.1. 主部＋述部動詞＋付加詞(場所の副詞)

主部＋述部動詞の後に、付加詞としての場所の指示副詞(demonstrative

adverb) を伴なう型である。引用例は、助動詞 can による拡張された述部動詞を持っている。

You can fish there. (D-21)

2.3.2. 主部＋述部動詞＋付加詞（場所の副詞句）

主部＋述部動詞の後に、付加詞としての場所の副詞句を伴なう型である。場所の副詞句は、静止動詞 (verb of rest) の場合は、変形成生文法では、VP に支配される Comp(lement) として分析される。静止動詞以外の場合は、S に支配される Adv. として分析される。引用例では、場所の副詞句は、前置詞, at, between, in, near, on に導かれる。

1. He lives in England. (D-13)
2. He lives in the United States. (E-8)
3. The boy lives in America. (E-8)
4. The girl lives in England. (E-8)
5. We live in Tokyo. (B-12)
6. They live in a small city. (E-12)
7. I live near railroad. (D-24)
8. We live near an American school. (B-12)
9. They live on a quiet street. (E-12)
10. He works in Tokyo. (B-9)
11. He works in a store. (D-14)
12. She works in an office. (D-14)
13. His mother works in a store. (D-13)
14. Tom's father works in an office. (D-13)
15. He works on a farm. (E-11)
16. I play at school. (E-11)
17. I play in the water. (E-15)
18. He runs in the park. (B-16)
19. The Shinkansen runs near my house. (D-24)
20. It runs between Tokyo and Hakata. (D-24)

進行形。

1. He is sitting in a big chair near the piano. (E-19)
2. Mr. Wilson is sitting at the piano. (E-19)

3. Miss Saito is standing near the blackboard. (B-20)
4. Mother and Jane are cooking in the kitchen. (A-16)
5. He is running in the park. (B-15)
6. Your brother is running after you. (C-14)
7. In this slide you are singing. (C-14)
8. Mr. Wilson is working quietly at his desk. (E-19)

否定文。

She does not work in a store. (D-14)

Does で始まる疑問文。

Does the boy live in America? (E-8)

Where で始まる疑問文。

1. Where do you live? (E-11)
2. Where do the Wilsons live? (E-12)
3. Where does your father work? (E-11)

2.3.3. 主部＋述部動詞＋付加詞(場所の副詞句)＋付加詞(時の副詞句)

主部＋述部動詞の後に、付加詞としての場所を表わす副詞句と、時を表わす副詞句を伴う型である。

This first train runs between the two cities in about seven hours. (D-24)

2.3.4. 主部＋述部動詞＋付加詞(方向の副詞(句))

主部＋述部動詞の後に、付加詞としての方向を規定する副詞(句)を伴う型である。運動動詞(verb of motion)に伴う方向を表わす副詞(句)は、変形成生文法では、VP に支配される Comp. と分析される。

1. I walk to school. (A-14)
2. No, I walk to school. (C-10)
3. My sister walks to school, too. (C-10)
4. I go to the World Theater. (D-16)
5. We go to the World Theater. (D-16)
6. I go to the sea. (E-15)
7. Mother goes to Nancy's room. (A-16)
8. I go to school. (E-11)
9. We go to school. (E-10)

10. My grandsons go to school. (D-20)
11. I go to junior high school. (E-13)
12. She goes to high school. (E-18)
13. I go to college. (D-20) (E-12)
14. He goes to college. (E-18)
15. My granddaughter goes to college. (D-20)
16. My grandmother goes to college. (D-20)
17. My mother goes to cooking school. (D-18)
18. It looks at the old year and the new year. (E-R)

進行形。

1. They are going to New York. (A-R)
2. I'm looking at the moon. (D-22)

否定文。

He does not go to cooking school. (D-18)

Does で始まる疑問文。

Does your sister go to the same school? (C-10)

Where で始まる疑問文。

Where do you go? (D-16)

命令文。

1. Mother, come here. (B-13)
2. Come down to the dining room. (A-16)
3. Look at this. (E-9)
4. Oh, look at the time. (D-15)
5. Look at this picture. (A-15) (E-8)
6. Look at this album. (C-12)
7. Look at this Japanese girl. (E-8)
8. Look at my watch. (E-17)

Please を伴う命令文。

1. Come here, please. (C-11)
2. Please come to my city. (E-13)
3. Go to the telephone, please. (B-15)

Let's で始まる文型。

1. Let's go home. (D-15)
2. Let's go to the shop. (B-13)
3. Let's run to the bus stop. (C-15)
4. Let's look at it. (B-20)
5. Let's look at another picture. (E-8)

2.3.5. 主部＋述部動詞＋付加詞 (時の副詞(句))

主部＋述部動詞の後に、付加詞としての時の副詞(句)を伴なう型である。

1. Her school starts at eight thirty. (A-14)
2. It rings at seven. (B-14)
3. It begins at eight thirty. (E-17)
4. We play on Sunday. (E-10)
5. They go on five days. (E-10)
6. School begins in February. (D-23)
7. I swim in summer. (A-12)
8. She skates in winter. (A-12)
9. Jane and I skate in winter. (A-18)
10. She studies before dinner. (A-16)
11. My birthday comes in August. (A-18)
12. December, January, and February come in the winter. (E-15)
13. On Saturday we study in the morning. (E-10)
14. We study from Monday to Saturday. (E-10)
15. They go from Monday to Friday. (E-10)

進行形。

1. He is studying now. (A-17)
2. She is studying now. (A-16)
3. Now he is walking. (D-22)

否定文。

1. She does not work on Wednesday. (D-14)
2. My father does not work on Monday. (D-16)
3. We don't study on Saturday afternoon. (E-10)

助動詞 be で始まる疑問文。

Are you studying now? (A-16)

Do で始まる疑問文。

Do English and American students go on Saturday morning?
(E-10)

When で始まる疑問文。

1. When do you play? (E-10)
2. When does it begin? (D-16)

What で始まる疑問文。

What time does school begin? (E-17)

2.3.6. 主部 + 付加詞 (頻度の副詞) + 述部動詞 + 付加詞 (場所の副詞句)

述部動詞の前に付加詞としての頻度の副詞を伴ない、後に付加詞としての場所の副詞(句)を伴なう型である。引用例2は、更に、時の副詞句を伴っている。

1. Girls often sit on the bench there. (B-17)
2. I sometimes study there after school. (A-15)

2.3.7. 主部 + 述部動詞 + 付加詞 (方向の副詞(句)) + 付加詞 (時の副詞句)

主部 + 述部動詞の後に、付加詞としての方向の副詞(句)と、付加詞としての時を表わす副詞句を伴なう型である。方向の副詞(句)は、運動動詞の Comp としての機能を持っている。

1. She goes home at three thirty. (A-14)
2. She comes home at five. (D-14)
3. Father comes home at six. (B-13)
4. I come to school at eight. (A-14)
5. I go to school at seven fifty. (B-16)
6. She goes to bed at ten thirty. (A-14)
7. She goes to work at ten. (D-14)
8. She leaves for school at eight. (A-14)
9. I go there in the afternoon. (B-16)
10. She goes to school in the evening. (C-18)
11. My sister and I go to the movies on Saturday. (D-16)

12. Japanese students go to school on Saturday morning. (E-10)
13. After dinner Nancy goes to Jane's room. (A-16)
14. I go to school from Monday to Friday. (E-13)
15. Mike goes to school from Monday to Friday. (A-18)

否定文。

1. I do not go to school on Sunday. (D-14)
2. My father does not go to work on Monday. (D-14)

Do で始まる疑問文。

1. Do you go to school on Sunday? (C-16)
2. Do you go to school on Saturday morning? (E-10)

Who で始まる疑問文。

Who comes home later, you or Mike? (A-18)

When で始まる疑問文。

1. When do you go there? (B-16)
2. When do you go to the movies? (D-16)
3. When do they go to school? (E-10)

What で始まる疑問文。

1. What time does she go home? (A-14)
2. What time does Nancy leave for school? (A-10)

命令文。

1. Roy, go to bed now. (B-14)
2. Come to my house at eleven. (B-16)

Let's で始まる文型。

Let's go to the park in the afternoon. (B-17)

2.3.8. 主部＋述部動詞＋不加詞（方向の副詞(句)）＋付加詞（程度の副詞）＋付加詞（様態の副詞）

主部＋述部動詞の後に、付加詞としての方向の副詞(句)、付加詞としての程度の副詞 very、付加詞としての様態の副詞を伴なう型である。

1. He comes home very late. (D-14)
2. He goes to work very early. (D-14)

2.3.9. 主部＋述部動詞＋付加詞（方向の副詞(句)）＋付加詞（頻度の副詞）

主部＋述部動詞の後に、付加詞としての方向の副詞句と、述部動詞の前後に、付加詞としての頻度の副詞を伴なう型である。

1. I often go to the park. (B-16)
2. He goes to this office every day. (B-9)
3. We go to church almost every Sunday. (C-16)

2.3.10. 主部＋述部動詞＋付加詞（方向の副詞句）＋付加詞（手段の副詞句）

主部＋述部動詞の後に、付加詞としての方向規定の副詞句と、手段を表わす副詞句を伴なう型である。

He goes to work by bicycle. (D-14)

Do で始まる疑問文。

Do you come to school by bus? (C-10)

2.4.1. 主部＋述部動詞＋付加詞（関係の副詞(句)）

主部＋述部動詞の後に、付加詞としての関係を表わす副詞句を伴なう型である。

1. I like with my friends. (E-11)
2. He plays with his friends. (D-13)
3. We play and sing with them, too. (E-11)
4. Other students study with us, too. (E-11)

進行形。

Yes, I am singing with my brother. (C-14)

Do, Does で始まる疑問文。

1. Do you study and play with your friends? (E-11)
2. Does your sister go with you? (D-16)

命令文。

1. Come with me. (C-11)
2. Come with us. (D-16)

2.4.2. 主部＋述部動詞＋付加詞（関係の副詞）＋付加詞（時、頻度の副詞）

主部＋述部動詞の後に、付加詞としての関係の副詞句と、時あるいは頻

度の副詞相当句を伴う型である。

1. She plays with her friends every day. (C-10)

2. On holidays I like with my friends. (E-15)

2.4.3. 主部＋述部動詞＋付加詞（手段の副詞）（＋付加詞）

主部＋述部動詞の後に、付加詞としての手段の副詞句を伴う型である。
引用例では、更に全文修飾の副詞 too を伴っている。

Bill comes by bus, too. (C-10)

Do で始まる疑問文。

Do you come by bus, too? (C-10)

2.4.4. 主部＋述部動詞＋付加詞（順序の副詞）＋付加詞（場所の副詞）

主部＋述部動詞の後に、付加詞としての順序の副詞と、付加詞としての場所の副詞句を伴う型である。

No, April comes first in every dictionary. (C-18)

2.4.5. 主部＋述部動詞＋付加詞（由来の副詞句）

主部＋述部動詞の後に、付加詞としての由来を表わす副詞句を伴う型である。

1. Its name comes from a Roman god's name. (E-R)

2. The names of the next five months come from old Roman names, too. (E-R)

3. Their names come from old Roman emperors' names. (E-R)

2.4.6. 主部＋述部動詞＋付加詞（表現様式の副詞句）

主部＋述部動詞の後に、付加詞としての表現様式を表わす副詞句を伴う型である。

1. We speak in English. (B-12)

2. We can sing in English. (E-16)

2.4.7. 主部＋述部動詞＋付加詞（一般関説の副詞）

主部＋述部動詞の後に、一般関説 (general reference) を表わす副詞句を伴う型である。

1. I write about my friends. (D-15)

2. Tom writes about his school. (D-15)

3. Jane writes about her country. (D-15)

2.4.8. 主部＋述部動詞＋付加詞（一般関説の副詞）＋付加詞（場所の副詞）

主部＋述部動詞の後に、付加詞としての一般関説の副詞句と、場所の副詞句を伴なう型である。

I learn about your country at school. (E-13)

2.4.9. 主部＋述部動詞＋付加詞（利益の副詞）

主部＋述部動詞の後に、付加詞としての利益を表わす副詞句を伴なう型である。

I'm cooking for you. (B-15)

2.4.10. 主部＋述部動詞＋付加詞（目的の副詞）

主部＋述部動詞の後に、付加詞としての目的を表わす副詞句を伴なう型である。

He is waiting for his wife. (B-18)

2.4.11. 主部＋述部動詞＋付加詞

主部＋述部動詞の後に、行為の対象を示す副詞句を伴なう型である。引用例は please を伴なう命令文である。

1. Please write to me. (A-R) (E-13)

2. Please write to him. (D-15)

2.4.12. 主部＋述部動詞＋付加詞＋付加詞（場所の副詞）

主部＋述部動詞の後に、行為の対象を表わす副詞句と、場所を表わす副詞句を伴なう型である。

He listens to the radio in his room. (B-16)

2.4.13. 主部＋述部動詞＋付加詞＋付加詞（時の副詞）

主部＋述部動詞の後に、付加詞としての行為の対象を表わす副詞句と、時を表わす副詞を伴なう型である。

Jane and Nancy are listening to the radio now. (A-R)

2.4.14. 主部＋述部動詞＋付加詞（範囲の副詞句）

主部＋述部動詞の後に、付加詞としての範囲を表わす副詞句を伴なう型である。

We can count from ten to sixteen. (E-16)

Can で始まる疑問文。

1. Can you count from one to ten? (E-16)

2. Can you count from ten to twenty? (E-16)

2.4.15. 主部＋述部動詞＋付加詞(様態の副詞)＋付加詞(比較の副詞節)

主部＋述部動詞の後に，付加詞としての様態の副詞と，付加詞としての比較の副詞節を伴う型である。

1. Planes fly faster than swallows. (B-20)
2. Light goes faster than sound. (B-20)
3. It runs faster than the Tokaido Line. (D-24)
4. His mother gets up earlier than Mike and Jane. (A-18)
5. I can run faster than Jane. (A-18)
6. She can sing higher than the boys. (E-20)
7. She can sing higher than all the other girls, too. (E-20)
8. He sometimes comes home later than our father. (A-18)

Can で始まる疑問文。

Can you skate faster than Jane? (A-18)